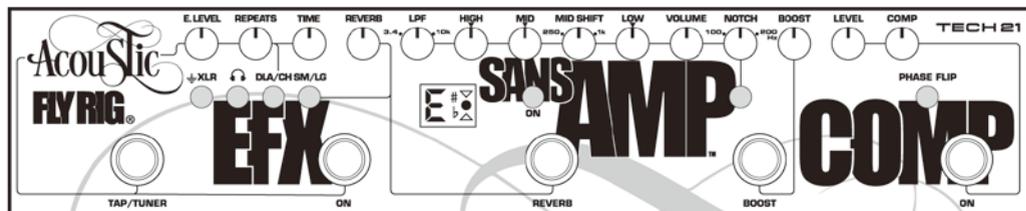


# TECH 21

Acoustic FLY RIG®  
TECH 21 · NYC



## USER GUIDE

### 1 はじめに

この度は TECH 21 製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。  
本製品の性能を最大限に引き出すためにご使用前にかならず内容をよくお読みください。  
Fly Rig 5 はシングルペダル、ボードなしでエフェクトボード以上の機能を持ちます。長さ 30cm ほど、重量わずか 510g ほどの洗練されたコンパクトなユニットは、あらゆるエフェクトや機能を搭載しています。その中心にあるのは、オールアナログの SansAmp です。これにより、PA またはミキサーに直接入力が可能。コンプレッサー、パワフルブースト、タップテンポディレイ / コーラス、リバーブなど、不可欠なエフェクトを搭載。断線、電池、グラウンドループの心配はありません。世界各地でライブをしたり、地元でジャムをしたり、土壇場でセッション…全てこれ一台で完璧です。

### 3 接続

#### ギターアンプとの接続：

標準のエフェクトペダルと同じように、本機をインラインで接続できます。あなたのアンプのプリアンプが多くの特徴を与えすぎているときは、低レベル入力に接続し、できるだけフラットに設定してください。多くのアンプは明るめの傾向があるため、SansAmp セクションの High を 12 時より下から始めて、調節してください。また、ほとんどの真空管アンプではサチュレーション（飽和状態）になると、ミッドレンジがカットされる傾向があります。それで、HI と LO が最小で、MID が最大の状態で最もフラットなサウンドが達成されることがあります。その状態は決して以上ではなく、この状態から好みに合わせて調節することをお勧めします。また、エフェクトループリターンにプラグインすることもできます（アンプにそれがある場合）。これにより、アンプのプリアンプ全体が無効になり、サウンドをより正確に表現できます。

#### ダイレクトにレコーディングする：

必要なトーンシェイピングとキャビネットエミュレーションはすべて、ペダルの SansAmp セクションにすでに組み込まれています。本機は、ギターの信号を自動的にローインピーダンスに変換し、通常、ギターの信号を直接入力するさまざまな入力に接続できます。ミキサー（ライブおよびスタジオ）、ワークステーション / レコーダー、さらにはコンピューターのサウンドカードに直接接続することもできます。

### 3 入力と出力

#### 1/4" フォン INPUT：

1/4" 1MΩ、インストゥルメントレベル。本機はギター本体、ディストーションペダルのアウトプットなど、インストゥルメントレベルのインプット信号を入力するように設計されています。想定の入力信号レベルはおよそ -10dB / 250mV です。（一般的なエレキギターに近い数値）

**注意：絶対にアンプのスピーカー・アウトから本機の入力に直接接続しないで下さい。アンプや本機が故障する恐れがあります。**

#### 1/4" フォン OUTPUT：

アンバランス 1kΩ ローインピーダンスインストゥルメントレベル。この出力は、ハイインピーダンスのギターアンプ（またはエフェクト）とローインピーダンスのミキサーおよびコンピューターの入力に接続できます。ペダルがバイパスモードのとき、出力レベルはユニティゲインです。また、バイパス中も長いケーブルでも信号を損なうことはありません。

#### BALANCED XLR OUTPUT & GROUND CONNECT スイッチ ( $\frac{1}{XLR}$ )：

バランスドローインピーダンスアウトプットです。GROUND CONNECT スイッチを ON にする (  $\blacksquare$  ) とグラウンドが接続されます。また、このスイッチを OFF にする (  $\blacksquare$  ) と本機のグラウンドはカットされた状態になり、接続されているミキサー等のグラウンドに接続されていない状態になります。

## 4 ご使用の前に

### レベルコントロールの関係：

入力から出力への信号の流れは右から左です。したがって、「PHAZE」から「COMP セクション」、「BOOST」、「SANSAMP セクション」の順に並んでいます。EFX セクション、DLA/CH セクションの Level コントロールは各エフェクトのミックスレベルにのみ影響し、全体の出力レベルには影響しません。

### ユニティゲインのレベル設定：

ペダルがアクティブかバイパスに関わらず、出音が同じ音量になるようにレベルコントロールを設定します。次のアンプやエフェクターが、通常よりもはるかに大きなシグナルが入力されたり、小さすぎるシグナルが入力されたりしないよう調節してください。

### EFX セクションのクリップインジケーター：

EFX セクションの E.LEVEL コントロールにはクリップクリップインジケーターが組み込まれています。回路が過負荷になると、DLA のレベルコントロールが赤く点滅して警告します。強めのピッキング時の瞬間的な点滅（ピーク）は問題ありませんが、継続的に点灯する場合は、対応するコントロール（ホット、プレキシセクション LEVEL、SansAmp セクション LEVEL）を調節してください。

### PHASE FLIP：

ギター入力信号の位相を反転させます。OFF (  ) のとき、出力は入力と同位相です。ON (  ) のときは、出力の位相が反転します。楽器がハウリングする場合は、位相を逆にするようにスイッチを入れてみてください。ON にしても、ハウリングする場合、原因の診断に進む前にこの機能を OFF にしてください。

## 5 COMP セクション

50 年代から 60 年代ごろのコンプレッサーを再現した、暖かく、クリアで、音楽的なコンプレッションを演出します。ソフトでかるうじてわかるようなものから超コンプレッション、無限のサスティンまで幅広く調節が可能です。

### LEVEL：

コンプ部の出力レベルを調整します。

## 6 BOOST セクション

ソコ用の独立した 12dB ブーストです。くっきりとしたサウンドを演出するワイドミッドレンジブースト。

## 7 SANSAMP セクション

### SANSAMP ON：

本機をレコーディングデスクや PA システムのミキサーに直接入力することを可能にする、オールアナログの SansAmp テクノロジーを採用。アクティブ EQ コントロールはどんな状況でもプロフェッショナルグレードの調節が可能です。

## 7 SANSAMP セクション

### NOTCH：

NOTCH スイッチを押し込むと、70Hz から 350Hz までをフィルターします。低音域によって引き起こされるハウリング対策として有効です。多くのノッチフィルターよりも穏やかなかかり具合なので、トーンを大きく変えることはありません。平均的なサイズと重量のアコースティックギターの場合は、150Hz の設定が適切です。ただし、モデルやサイズによって調整が必要になる場合があります。

### VOLUME：

SansAmp セクションがオンになっているとき、セクションの出力レベルを調節します。さまざまな機器との最大限の互換性を保つために非常に広い範囲を備えています。

### LOW & HIGH：

EQ セクションは、スタジオミキシングボードのように、あなたに完全な EQ コントロールを与えます。カットするパッシブトーンコントロールとは異なり、12 時を 0 として ±18dB カットまたはブーストします。Low & High のクロスオーバー周波数は 1kHz です。

### MID & MID SHIFT スイッチ：

スイーブ可能なセミパラメトリック EQ コントロールは、それぞれ 150Hz から 3.2kHz を ±15dB の範囲でコントロールできます。Mid Shift コントロールでは、ミッドレンジ (Mid) コントロールの中心周波数を選択できます。

Mid Shift を 12 時に設定すると、Mid は従来のミッドレンジコントロールとして機能します。

### LOW パスフィルター：

1.5kHz から 20kHz までフィルター可能で、不要な周波数帯と雑音をカットします。

## 8 EFX セクション

### REVERB：

空間の豊かな響きをエミュレートします。このコントロールは、希望のリバース量を簡単に設定可能です。SM / LG (スモール / ラージ) スイッチで、狭い部屋または広いホールの響きを選択できます。  = SM。  = LG。

### DLA/CH ファンクションスイッチ：

ディレイとコーラスを選びます。ディレイはビンテージのテープエコーのような暖かなサウンド。コーラスは、ピッチシフト効果を使用してアコースティックギター用に調整されているため、スピードとデプスのコントロールが不要です。

 = DLA (ディレイ)  = CH (コーラス)。

### TIME：

DLA モードでの、ディレイタイムを調節します。1 ミリ秒から最大 750 ミリ秒の範囲で、調節可能です。12 時の位置は約 200 ミリ秒です。演奏中にタイムコントロールを回すと、ビンテージアナログディレイのように、ギターのピッチが変化します。

注：CH モード時は無効です。

### REPEATS：

DLA モードでの、リピート回数を調節します。7 時の位置で繰り返しが 1 回です。設定を大きくすると、それに応じて繰り返しは無限になるまで続きます。

## 8 EFX セクション

### CHORUS:

CH モードでは、デチューンした（数セントピッチをずらした）2つ以上の音を原音に重ねます。

### E. LEVEL:

EFX 部のみ出力レベルを調節します。クリップインジケータとしても動作します。

### TAP TEMPO:

TAP スイッチを演奏中にタップするだけでディレイテンポを設定できます。

Tap Tempo は TIME 設定を無効にします（逆に TIME ノブを回すと TAPTEMPO は無効になります）。この機能はバイパスでも機能しますので、事前に設定できます。タップテンポを変化させても、ギターのピッチは変わりません。

## 9 その他の機能

### クロマチックチューナー:



TUNER スイッチを踏み込むことでクロマチックチューナーが起動し、入力信号をミュート、チューナーウィンドウの LED が点灯します。緑色のランプが点灯している場合は、チューニングが合っています。赤い矢印が出た場合は  
上向き矢印 = フラットしています。ピッチを上げてください。  
下向き矢印 = シャープしています。ピッチを下げてください。

目的の音に近づくと、矢印は速く点滅し、チューニングが合うと消えます。

その後緑色のランプが点灯しチューニング完了です。

### ヘッドフォンスイッチ (🎧):

1/4" 出力端子がヘッドフォン用出力に替わります。音量が上がり、ヘッドフォンの左右ともに聴こえるようになります。

注意：ミキサーやアンプの入力に接続する場合は、この機能を解除してください。

## 10 使用上の注意

◆ 本機とパワーアンプを接続する際に、トランスのグラウンドが異なるものを使用することになるため、スイッチングタイプの電源アダプターのハムノイズを拾う場合があります。故障ではありませんが、パワーアンプ側の XLR 入力端子のグラウンドを落とす必要があります。詳細は、お使いのパワーアンプの取扱説明書などをご参照ください。

◆ ギターの出力が非常に高い場合は、COMP の設定を低くしても非常に強く効果がでます。また、設定値を大きくすることでハウリングすることがあります。

◆ ミッドがブーストポジションにあるとき、歪む事があります。歪みをなくすには、Mid コントロールを減らしてみてください。

◆ リバースが多すぎるとハウリングの原因になります。お好みの量で使用して頂きたいですが、輪郭を失うほどの量はおすすめしません。

◆ フィードバックチェックポイント

a) トーンコントロールを好みに合わせて設定した後、SansAmp セクションの音量を少しずつ上げていきます。目的のレベルに達する前にフィードバックが入り始めた場合は、PHAZE スイッチを押して位相を反転させます。それでも問題が解決しない場合は、フェーズフリップスイッチをアウトの位置に戻します。

b) ノッチスイッチを押し、ノッチコントロールをローからハイに回して、問題の周波数が止まる場所を見つけます。その後、必要に応じて音量を上げます。

c) COMP の設定を確認してください。高い設定はハウリングの原因となりますので、それが停止するかどうか見るために COMP セクションを OFF にしてください。もしくは、わざとコンプレッションによるハウリングを作り、ノッチフィルタを使用して周波数を特定します。その後、必要に応じて COMP を下げる方法もあります。

d) リバースの設定を確認してください。高い設定はハウリングの原因となります。

◆ ステレオ 3.5mm をモノラル 1/4" フォンへ変換するプラグを使用すれば、ヘッドフォンを直接本機の OUTPUT に入力が可能です。（音量には充分ご注意ください。）

◆ 本機のコントロールは異常に緻密なセッティングを可能にするため細かく設定されています。最大の結果を得るためには、すべてを最大に設定する必要はありません。例えばサウンドを明るくしたい時は、HI を上げるのではなく、LOW を下げてみてください。

◆ 本機のノイズレベルは非常に低く設計されていますが、入力ソースから発生するノイズを増幅する可能性があります。本機のコントロールは異常に敏感であり、高レベルの出力を出すために最大レベルの入力を必要としません。本機に入るノイズを最小限に抑えるために、エフェクターは、トーンコントロールをフラットに設定してください。もしブーストする必要があるならば、ゆっくりと控えめに設定してください。シングルコイルピックアップはノイズを生成する可能性が高くなります。しっかりとノイズ対策を行ってください。

◆ 演奏テクニックのダイナミクスとニュアンスに対する高い反応性を損なわないために通常、本体を本機に直接接続してください。

その他エフェクトを使用する際は一般的な使用法として、

本機の前：ブースター、コンプレッション、ファズ、フェイザー/バイブ、オーバードライブ、ワウ等

本機の後：ディレイ、EQ、フランジャー、フェイザー（後もおすすめです）、ピッチシフター、リバース等

をおすすめしますが、お好みに合わせて配置してください。

◆ バッファードバイパスは、「トゥルーバイパス」のポップとクリック、および複数のペダルを接続したときの高音痩せなどの欠点や、スイッチング回路や長いケーブルによる信号のロスを軽減します。

ON (IN) ● OFF (OUT) ○

**START-UP SETTING**

